

《パターン1：債務名義が判決，少額訴訟判決等の場合》

請 求 債 権 目 録

〇〇地方裁判所令和〇〇年(ワ)第〇〇〇〇〇号事件の執行力のある判決正本<sup>1</sup>に表示された下記債権

記

1 元 本                    金 2 0 0 万円

2 損害金

ただし，上記1に対する令和2年7月2日から支払済みまで年3%の割合による損害金

---

<sup>1</sup> 判決書に代わる調書の場合には，「第〇回口頭弁論調書（判決）正本」，「第〇回口頭弁論調書（少額訴訟判決）正本」とするなど，債務名義の標題に合わせます。

《取立等がある場合<sup>1)</sup>》

## 請 求 債 権 目 録

〇〇地方裁判所令和〇〇年(ワ)第〇〇〇〇〇号事件の執行力のある判決正本に表示された下記債権

## 記

下記1及び2の合計から、下記取立金等（ただし、下記各事件の執行費用分を除く。）を控除した残金

1 元金 金1,000,000円<sup>2)</sup>

ただし、主文第1項に記載された金員

2 損害金

上記1に対する令和2年5月1日から支払済みまで、年3%の割合による損害金<sup>3)</sup>

[以下、該当するものを記載する。]

## 《取立てがあった場合》

申立人は、〇〇地方裁判所令和〇年(ル)第〇〇号事件、同庁令和●年(ル)第●●号事件にて、債務者につき合計〇〇円<sup>4)</sup>を取り立てた。

## 《配当等があった場合》

申立人は、〇〇地方裁判所令和□年(ル)第□□号事件、同庁令和■年(ル)第■■号事件にて、債務者につき合計□□円<sup>5)</sup>の配当等を受けた。

## 《債務者から任意弁済があった場合》

申立人は、債務者から合計△△円の弁済を受けた。

<sup>1)</sup> この書式は、債務名義上の債権額が、調査した債務者の財産（資産額）よりも多額であることが明らかな場合を想定したものです。事案によっては、詳細な残額計算表が必要になります。

<sup>2)</sup> 判決正本等債務名義の記載をそのまま転記します。

<sup>3)</sup> 同上

<sup>4)</sup> 奥書に記載された金額を記載します。

<sup>5)</sup> 同上